

～保護者の皆さまと  
学科をつなぐ  
ほっとライン～

# しまなみだより



Department of Nursing

第5号 2015年10月発行

## ～2015年後期が始まりました～

錦秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を頂きありがとうございます。9月末から後期が始まりました。1年生は初めての看護実習を終え、2年生は専門科目が増え、高いモチベーションで後期の授業に取り組んでいます。3年生は統合実習に続いて、急性期看護・慢性期看護・老年看護実習がはじまっています。4年生は卒業研究を本格的にすすめています。11月には大学祭があります。エネルギーあふれる在学生の様子をぜひご覧いただければと思います。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

看護学科広報係

## 2015年オリエンテーションセミナーを行いました！



看護学科1年次生全員の集合写真！！



屋外運動場でチーム対抗ゲームを行いました



防犯教習の様子

5月15日に、5学科1年生全員と在学生、教員が参加する「オリエンテーションセミナー」が開かれました。警察官による防犯教習、学生自治会企画による参加型野外イベントなど、楽しく体を動かしながら交流することができました。現代の医療と地域ケアに求められるチームアプローチの実践には、様々な職種間のコミュニケーションが大切です。学生の頃から他職種と交流する機会に恵まれる本学の学生さん達は、しっかりとしたチームアプローチを実践できる看護職になるだろうと思いながら過ごした一日でした。

(渡邊陽子)



# 平成27年度前期 トピックス

## 在宅看護実習

在宅看護は、赤ちゃんからお年寄りまで、様々な健康レベルの方に、どの療養の場でもその人らしく生きることを支援する看護です。そのため、生活と医療を統合してとらえる思考、療養者と家族を看護の対象ととらえる思考、多職種と連携しチームでかかわる実践能力が求められます。当大学の在宅看護実習は4日間、県内の訪問看護ステーション(21箇所)で、訪問看護師(時には理学療法士や作業療法士も)との同行訪問を行います。退院支援カンファレンスやケア会議へも参加します。主な実習課題は、療養者の状況関連図と家族のエコマップの作成、多職種連携図と看護師の役割、倫理的課題の展開と看護師の立場の明確化です。学生は、これらの課題を指導者や担当訪問看護師に発表し、事例検討の機会を作りました。学生達は指導者や担当訪問看護師らとの積極的な検討を行い、生々しい現状を五感で感じることで、自宅でその人らしく生活する多様な看護のあり方を学び、看護観を広げる機会としていました。卒業すると、病棟の看護師になる人がほとんどです。これらの学びを生かして、“その人らしさを引き出し”、“その人の退院後の生活を見据えた看護”の実践を期待しています。(岡田麻里)



訪問看護ステーションの看護師さんと訪問先に同行するため、学生が車に同乗するところです。



## オープンキャンパス

今年で2回目の「学生プレゼンテーション—在在学生による看護学科の紹介—」は多数の来場者を前にして、在在学生は大学生の生活や受験についていきいきと語り、終了後も高校生との交流が続き、お互いにより刺激を受けていました。(土路生明美)



プレゼンテーション後の集合写真!

## 在学生向け広報誌創刊

今年度から、看護学科学生の広報係が中心となり、学生のための広報紙を作成することとなりました。タイトルは「県広ナースのたまご」で年間3号の発行を予定しています。第1号は7月に発行しました。内容は、テスト勉強の仕方についての先輩生からのアドバイス、教員や卒業生との対談などを掲載しています。学生による情報発信が増えたことで、学科の皆がこれまで以上につながり学科の活性化につながることを期待しています。次号は10月発行予定です。(鴨下加代)



第1号の紙面と ナースたまごのイラスト

## 2015年8月にインドネシア教育大学留学生 留学期間を満了しました

インドネシアからの留学生 2 名が、1 年間の留学期間を満了し、8 月に帰国されました。留学生は平成 26 年 10 月から 1 年間 2 年生・3 年生と共に学びながら、大学の行事に積極的に参加し、地域の方々との交流も深めました。在學生は、バディとして学業面や生活面で積極的にサポートしてくれました。平成 27 年 8 月 4 日(火)に送別会を開催し、看護学科の学生 15 名、教員 10 名が参加しあて別れを惜しまました。留学生からは、三原キャンパスでの大学生活で楽しかったことや、教員・学生への感謝の言葉が語られました。インドネシアに帰国した後は、残り 1 年間の大学生活を経て看護師免許を取得することになるそうです。将来は日本の看護師免許を取得し、一緒に看護ができる日がくるとよいですね。 (黒田寿美恵)



## 看護学科 オーストラリア短期研修 報告

9月12日～23日の間、看護学科の学生18名と教員1名が、オーストラリア短期研修を行いました。

最初の1週間は、キャンベラ大学内の宿泊施設に滞在し、大学の看護や英語の講義を受講したり、看護学生とともに看護技術演習に参加しました。キャンベラ大学滞在中は教員や学生と多く交流をしました。またキャンベラ病院の見学やナースプラクティショナーの実践の様子などを紹介してもらいました。その後シドニー郊外にて2泊3日の日程でホームステイを体験した後、予定通り帰国の途につきました。 (日高陵好)



キャンベラ大学の教員や学生とともに、心肺蘇生や血糖測定等演習に参加し、演習室にて記念撮影。



キャンベラ病院の視察の際、エントランス前にて学生の1グループで記念撮影しました。

## 教員の紹介 学科の名物教員をご紹介します!



松森直美教授

今年度から学科長になりました松森直美です。学部と大学院で小児看護学を教えています。

まだまだ新米の学科長ですが、日々奮闘する中で思うのは、教員全員のフットワークの良さと団結力です。個性豊かな教員各々の強みを生かした教育に対する姿勢やパワーは絶対に学生たちにも伝わっていると確信しています。私個人の研究テーマは、医療を受ける子どもの権利を守る看護師の関わりについてです。ここ数年、学术交流協定を結んでいるドイツのNRW応用科学大学看護学部や医療福祉施設への訪問、現地の方々との情報交換を通してこのテーマについて考えています。プライベートでは、スローライフを楽しみながら仕事とのバランスをとっています。Facebookに我が家の庭の木々や花々、時々やってくる鳥たちの写真を掲載しています。土いじりの難敵は雑草ですが、学生の皆さんには雑草のように“何があってもへこたれない逞しい看護職”として活躍して欲しいと願っています。



3月に訪問したドイツ・ケルンの障害児職業訓練施設にて

## ～卒業生 頑張っています!～



平成20年度卒業生  
田村 翼さん  
県立広島病院 認定看護師

県立広島大学を卒業後、県立広島病院に就職しました。現在東6病棟(臨床腫瘍科・放射線科)に勤務しており、平成27年にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得しました。当院でがん化学療法を受けている患者様は、がんの遠隔転移があり、根治は難しく、延命・症状緩和を目標として治療をしている場合がほとんどです。子どものために少しでも長く生きて仕事を続けたいという方やがんの進行により消化管狭窄を起こし食事が食べられなくなり、もう一度口から食事が食べたいという思いで治療をされていた方もいました。そんな患者様と接するうちに、化学療法を受ける患者様をサポートできるような知識や技術を身につけたいと強く思うようになったことが今の自分につながっています。今後は専門的な看護実践はもちろんですが、スタッフへの指導にも力を注いでいきたいと考えています。

看護学科「学生生活通信」について ご意見、ご感想などお寄せ下さい。

〒723-0053 広島県三原市学園町1-1 TEL 0848-60-1120 (代表)

FAX : 0848-60-1134 (代表) E-mail : nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp

発行 : 県立広島大学保健福祉学部看護学科 広報係